

# 特集 絆でつながる、安全安心なまち、箕輪 ～みんなで考えよう、セーフコミュニティ～ 安全安心の日の集い 2015

箕輪町がセーフコミュニティの国際認証を取得してから、今年で4年目となりました。みなさんは、安全安心な暮らしを送るためにどんなことに気をつけていますか？ 私たちが目指す「安全安心なまちづくり」について改めて考えてみましょう。

## 「安全安心の日の集い 2015」開催

5月12日、セーフコミュニティ推進協議会が町文化センターと地域交流センターで「箕輪町安全安心の日の集い2015」を開催し、町民約100人が参加しました。セーフコミュニティ国際認証を取得した5月12日を、昨年「箕輪町安全安心の日」と宣言したことから、今年初めて、テーマ別の分科会と全体会が行われました。

これまでの、著名人を招いての聴講型の講演会から、町民参加型にシフトして開催された「安全安心の日の集い2015」。テーマの選定から町民が行い、意見交換など参加意欲が感じられる有意義なイベントとなりました。その様子を紹介します。

### プログラム紹介

第1部	分科会	18:30～19:30
	～テーマごとに話し合おう！～	
第2部	全体会	19:30～20:00
	～話し合ったことをまとめてみよう！～	
	分科会報告	
	表彰	日本セーフコミュニティ推進機構から 功労賞授与
	講評	日本セーフコミュニティ推進機構 白石陽子代表理事
	挨拶	箕輪町セーフコミュニティ推進協議会 会長 箕輪町長 白鳥政徳

## 分科会における各テーマごとの主な意見交換内容

### テーマ2 高齢者の「地域の見守り」どうするの？

#### 高齢者の安全対策委員会

##### 意見交換内容

- ・近所づきあいを大切にし、お茶飲み会や趣味の会を開く。
- ・認知症の人への接し方について学べる場所が欲しい。
- ・生きがいを感じられるようなボランティア活動が大切。



##### 全体会での報告内容

- ・近所づきあいや互助の精神が重要。合わせて体力づくりなど常会単位で支援する組織が作れば良い。
- ・認知症については周囲の人が理解し、お節介と言われても行うことが大事。

### テーマ1 高齢者の「交通事故」、なぜ多い？

#### 交通安全対策委員会

##### 意見交換内容

- ・身体機能の低下、判断力の低下など。
- ・生活に車が必要。公共交通機関が充実していない。
- ・タクシー券の補助を増やしては？



##### 全体会での報告内容

- ・身体機能の低下や高齢になっても車を使わざるを得ない状況がある。
- ・対策としては、夜間の外出を控えるなど、自分自身で気をつけることが必要。

【あいさつ運動】

箕輪町をさらに良くしていくために、あいさつであふれる町を全員(町民)でつくっていきたい。  
(3年女子)

【交通安全】

もう少し歩道を明るくし歩きやすい箕輪町にしてほしい。  
(3年男子)

箕輪中学校生徒からの意見

【高齢者の安全】

近所づきあいやあいさつで、高齢者の健康状態を把握することもできる。  
(3年女子)



表彰

北小河内セーフコミュニティ推進協議会(KSC)が日本セーフコミュニティ推進機構から功労賞を受賞

2010年の協議会発足以来、箕輪町のモデル地区として他自治体に出向き、取組内容を発表し助言を行うなど、セーフコミュニティの普及・推進に貢献したとして今回の受賞となりました。



講評

日本セーフコミュニティ推進機構 白石陽子代表理事

今回の集いの最大の成果は、住民の皆さんが情報を共有できたこと。セーフコミュニティは継続することが大切。ポイントは、取り組みを楽しんで行うこと。是非、無理なく、気軽に、楽しくなるような活動を皆さんで考えて欲しい。



挨拶

セーフコミュニティ推進協議会 会長 白鳥政徳町長

向上している部分もあるものの、認知度や関心度が思ったより上がっておらず、区によって取り組みにバラツキがあるなど、具体的な取り組みを町全体に広げる活動が必要と思われる。現在の取り組みを「見える化」していき、「住んでみたい町」といった町のイメージアップにつながれば、取り組みが活かされてくる。



テーマ 3

「あいさつ」について考えよう!

子どもの安全対策委員会

意見交換内容

- ・1日に5人以上を目指して、あいさつ5人運動を実践。
- ・お互いに関心を持つことで防犯につながる。
- ・周囲に目が向くことで自然な見守り活動ができ、安全なまちになる。



全体会での報告内容

- ・毎月11日を中心に、「街頭あいさつ運動」を実施。
- ・あいさつは相手を認める行為であり、地域のつながりを生み、まちの誇りや伝統になる。顔見知りになることで、外部からの侵入者による犯罪の抑止にもつながる。

テーマ 4

備えてますか。あなたを救う「命のカプセル」

くらしの安全対策委員会

意見交換内容

- ・体験談は広めるべき。実際の現場での活用が結構ある。
- ・高齢者や障がい者だけでなく、希望する人には配布して欲しい。
- ・中の紙に書く情報が多すぎる。



全体会での報告内容

- ・「命のカプセル」について初めて聞く人も多かった。
- ・外出時対応としての「小型カプセル」無料配布、存在を知らせるシールだけでも配布を」などの声が聞かれた。

テーマ 5

「悩んでいる人」に寄り添う

自殺予防対策委員会

意見交換内容

- ・悩んでいる人を見つけるのは難しい。
- ・向こう三軒両隣の意識を強め、地域で見つけられるようにする。
- ・普段からふれあいの場を作る。



全体会での報告内容

- ・一番のポイントは「悩んでいる人」を見つけること。
- ・日頃から地域での信頼関係を築いておくことが大切。
- ・昔ながらの「地域の絆」による地域づくりがポイント。





# 平成26年度、箕輪町では こんなセーフコミュニティ活動を行いました!



## 主な活動を紹介します。

### 「箕輪町安全安心の日」制定記念フォーラム

平成26年5月10日、町文化センターで、「箕輪町セーフコミュニティフォーラム2014」を開催。安全安心に関する意見提言など「安全安心の日」セレモニーに続き、「これからの“暮らし”と“地域づくり”」と題し、青森大学教授・エッセイスト・ジャーナリストの見城美枝子氏の講演会もあり、町民約350人が参加しました。



### こころの健康づくり講演会

平成27年1月25日、NPO法人 自殺対策センター ライフリンク代表の清水康之氏を講師に招き、こころの健康づくり講演会を開催。「誰も追い込まれることのない社会へ」と題し、「虐待により自殺に追い込まれた少年の事例を挙げ、助けを求めるSOSのサインの出し方を教えることが重要である」などと話され、約200人が聴講しました。



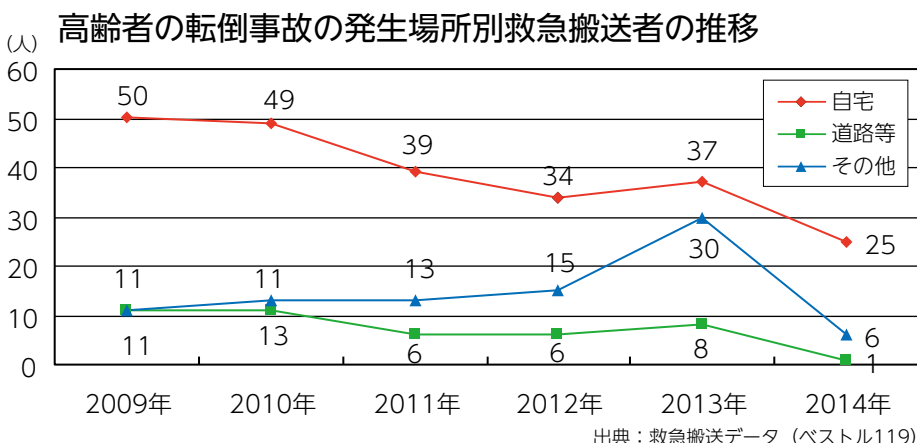
### あいさつ運動スタート

毎月11日の「信州あいさつの日」の活動に連携し、子どもの安全・くらしの安全対策委員会が、「あいさつの励行により、安全安心につながる。セーフコミュニティ活動の一環として取り組むべき」との委員提案を受け、平成26年7月から「箕輪町あいさつ運動」の街頭活動を始めました。



## データで見るセーフコミュニティへの取り組みの成果

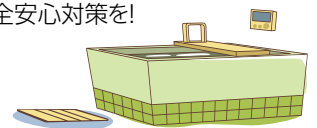
高齢者の転倒事故は、セーフコミュニティへの取り組みを宣言した2009年からの推移を見ると、2013年は多少増があったものの、全体的に年々減少傾向にあります。「安全安心の知恵袋」の配布及び活用、「みのわ健康アカデミー」、「いきいき塾」といった介護予防教室への参加を含めた総合的な対策による成果が期待されています。



### まだまだ多い、浴室での 高齢者の事故

ここに注意!

- ・ 足ふきマット、浴槽の滑り止め、手すりの設置など、浴室で滑らない工夫を!
- ・ 浴室、脱衣室、居室の温度変化によるヒートショックに注意!
- ・ 同居する家族がいる場合は一声掛けて、安全安心対策を!





危機管理・セーフコミュニティ推進課  
向山 静雄 課長

町ではこれからどのようなセーフコミュニティ活動を進めていくのか、平成27年度の課題や取り組みについてお話を伺いました。

## セーフコミュニティの全町展開を目指して

### 認知度は上がるも、関心度が低下

平成27年度、町のセーフコミュニティ事業としては2つの課題を掲げ、取り組んでいきます。

一つは、セーフコミュニティとして全ての自治体に共通する7つの指標をより具体的に実現していくこと、もう一つは、町独自の課題である活動と成果の「見える化」です。

セーフコミュニティに関する町民アンケートを平成23年度と平成25年度に行いました。結果を比べると、認知度は46.6%から52%に上がったものの、関心度が64.7%から58.6%に下がってしまいました。セーフコミュニティの認証取得が平成24年ですから、目指している時は高かった関心度が、認証取得により薄れてしまった感じですが、

一方で、平成26年度に行った住民満足度調査では、安全

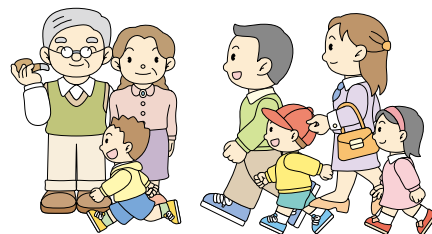
安心な環境について、満足度が10位中4位、今後箕輪町が取り組むべき重要課題では20位中5位でした。また、転入された方が町に期待する施策では「防犯・防災」が上位にあり、

安全安心なまちづくりに対する期待がうかがえます。

### 活動と成果の「見える化」が課題

セーフコミュニティ活動は「地域の絆・協働・継続」をキーワードにしています。最近は大規模な自然災害が頻発し

ていますが、昨年、長野県北部が大地震に見舞われた際には、地域の隣人同士の助け合いによって救出された方が多くいました。これこそが地域の絆の表れです。また、オレオレ詐欺など最近問題となっている特殊詐欺被害なども、日頃声を掛け合いコミュニケーションがあれば、「おかしいぞ」と気づき、防げます。このように地域の絆を基盤とした協働のまちづくりによる、安全安心な地域づくりが必要で、町内全体での展開が課題となっています。そのため、地域の住民目線による動機付けや活動と成果の「見える化」を重点課題として推進していく必要があると考えています。



### 自ら共感し、活動できる取り組みを

「箕輪町安全安心の日の集い2015」でも、各分科会で共通して「地域におけるコミュニケーションの必要性・重要性」が取り上げられました。誰でも取り組みが、共感して参加できることが継続につながり、地域のコミュニケーションづくりにもつながっていくと思います。そこで、今年度は「身近に必要な課題」、「取り組める課題」、「取り組んで良かった」といえる課題を地域の皆さんと抽出し、地域の主体的な活動と行政の支援に力を入れたいと思っています。

町民の皆さんが「安全安心」を体感できるセーフコミュニティのまちづくりを目指して活動・支援していきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

### 平成27年度展開予定の新たな取り組み

- ・ 認知症高齢者保護用反射靴ステッカー
- ・ SCマーク入りバンダナ
- ・ 緊急情報入呼子（命のカプセル小型版）
- ・ 飲酒運転撲滅店宣言の証 等



問合せ先

危機管理・セーフコミュニティ推進課 ☎79-3111(内線195・193)